



カツオとひらひらでつながった「気仙沼Tシャツアート展」

10月6日(土)～8日(月)、黒潮町とカツオと通じて縁のある宮城県気仙沼市で「気仙沼Tシャツアート展」が開催されました。NPO砂浜美術館とまちづくりマーケットプロジェクトによる「気仙沼∞黒潮逢縁(おうえん)プロジェクト」の一環。裏にカツオの塗り絵、表に気仙沼市内の小学生のデザインを印刷した「気仙沼っ子カツオ元気Tシャツ」600枚のほか、お気に入り写真Tシャツ147枚やワークショップTシャツ、アーティストTシャツなど、合計約800枚を市内5会場に展示。期間中は、黒潮町からバスで現地入りした漁協女性部と大方高校生が、各会場と気仙沼朝市を巡回し、カツオのたたきとカツオたたきバーガーをふるまいました。気仙沼市ではカツオは刺身で食べるのが一般的で、「カツオのわら焼きを初めて見た」というお客さんも。また大方高校生は、宮城県気仙沼向洋高校と一緒にバーガーをふるまったり、被災した校舎を見学するなど交流を図りました。

(写真) 1：岩井崎 2：南町紫市場 3：巡回キャラバン 4：受賞者表彰式 5：気仙沼横丁 6：東新城かもめ通り



気仙沼∞黒潮逢縁プロジェクトに参加して

高知県立大方高等学校 3年 山沖静奈

10月なのに寒い、私が気仙沼でまず感じたことです。震災のあったあの日は、きっと想像できないくらい寒かったんだと感じました。

町の中は、まだ、がれきやコンクリートの土台しかない所などがたくさんありました。被災した向洋高校は、車やがれき、魚の死骸などが落ちていて、ただただ怖かったです。



一緒に明るく活動していた向洋高校生が、当時は「人間が一番怖かった」というのを聞いて、災害はそれほど人間をおかしくしてしまうんだと思い、悲しくなりました。



また、地元の人たちの温かさにも触れました。飲み物や温かい食べ物を持って来てくれ、「本当にありがとう。」と言ってくれ、現地に行って支援することの大切さを学びました。



黒潮町も必ず地震が来ると言われています。今自分にできること、この経験を伝えていくことを精一杯しようと改めて思いました。気仙沼に行けて、本当によかったです。これからも交流を続けていきたいと思えます。